

中部様式

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果)概要(全体)

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会 (恵那市・中津川市)

平成20年3月21日 設置

令和 4年2月10日 明知鉄道沿線地域公共交通計画 改訂
(計画期間:平成31年度～令和8年度)

令和 3年6月9日 フィーダー系統確保維持計画策定

令和 5年1月10日 承認後 令和4年度評価結果送付予定

【沿線地域の特性】

- ・ 恵那市・中津川市は、山間地が多くを占め、岐阜県東濃地域に位置している。
- ・ 恵那市の人口は47,660人、中津川市阿木地域の人口は2,032人（令和4年12月1日現在）

明知鉄道沿線地域公共交通計画

（計画期間：令和元年～8年度）

※令和4年1月 第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画を改訂

【基本的な方針】

多くの担い手が連携し、
多くの方々が安心して暮らし、
おでかけできるまち

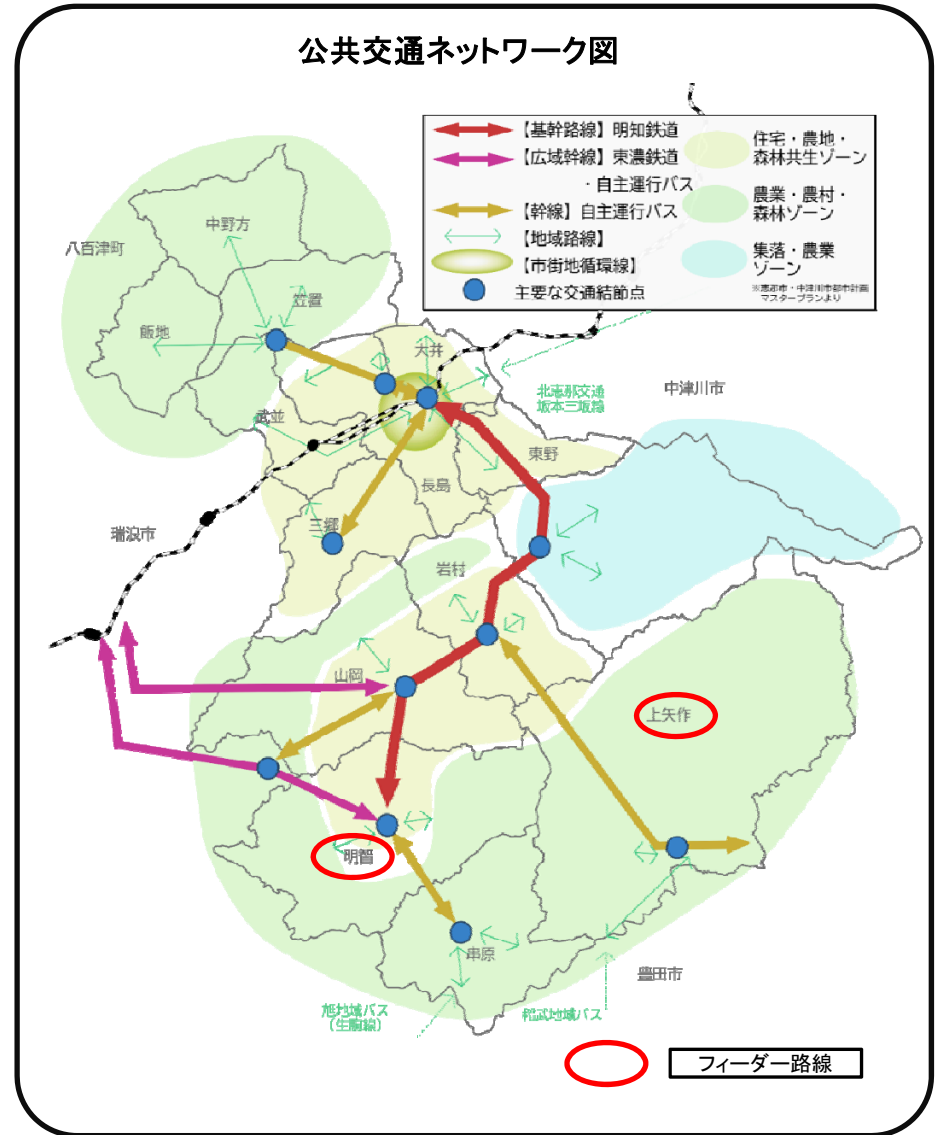
計画の目標

- 目標 **1** 公共交通を「支える」「活用する」
地域住民の活動促進

- 目標 **2** 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成

- 目標 **3** 域外から来た人や高齢者が抵抗なく
自然に移動できる環境の整備

公共交通ネットワーク図



2. 【Do】 目標達成に向けた取組み状況

3

◆ 目標達成のための事業内容 ◆

目標	施策	事業	R4達成状況	実施内容
【目標1】 公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進	1.公共交通を「活用」する市民の意識づくり	1.観光列車やイベントでの市民による活動	○	鉄道の乗客を園児や地元団体がお出迎え
		2.地域イベントと連携した公共交通の活用	○	JRウォーキング、全国山城サミット、WRCと連携
		3.SLの復元を通じた地域づくり	○	SL乗車体験、SLファンクラブへの加入促進
		4.待合時間を有効活用できる結節	✕	駅付近で空き店舗などの利活用を検討
	2.公共交通を「支える」市民の活動促進	1.明知鉄道が有するさまざまな価値の発信	○	学校運営協議会に参加し情報発信、高校生ポスター制作・駅舎掲示
		2.沿線環境の整備	○	地域住民による景観整備、高校生駅舎装飾
		3.収入源の拡大	○	グリーン会員証
		4.モビリティマネジメントの推進(利用促進・公共交通マップの作成)	○	列車内会議開催、公共交通シンポジウムの開催等
【目標2】 持続可能な地域公共交通ネットワークの形成	1.地域全体の総合的な公共交通ネットワークの形成	1.恵那駅周辺での循環線の 신설	○	まちなか巡回バス、シェアサイクルの運行開始
		2.幹線と地域路線の見直し	○	上矢作地区、明智地区、旧恵那市区、まちなか線の見直し
		3.明知鉄道の1時間1本化	✕	準パターンダイヤ一部設定
	2.快適な公共交通利用環境の整備	1.施設の更新	○	計画に基づき鉄道事業実施
		2.P&R、サイクルトレインの推進	✕	未検討
		3.鉄道・バス共通1日乗車券の発売	✕	市内バス1日乗車券をR5/3月発売 今後鉄道も含めて検討
	3.関係者との連携強化	1.恵那峡線・大井町東線・大井町西線・明智線の改善・利用促進	○	恵那峡線、大井町東・西線を地域公共交通会議の協議路線とした。今後一体的な利用促進を実施する
		2.隣接自治体との関係強化・組織間ネットワークの充実	✕	未検討
【目標3】 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	1.当地域に適したMaaSの実現	1.運賃のキャッシュレス化(再掲)	○	1日乗車券のキャッシュレス化をR5/3月に開始
		2.人とアプリによる「交通コンシェルジュ」	○	恵那市交通コンシェルジュ(人・WEB)をR4/10月から運用開始
		3.日帰り旅コースの設置・運用	○	市交通コンシェルジュ内で公共交通を利用した「小旅」コースを設定
		4.定額制乗り放題運賃・年間パスポート	○	市内バス1日乗車券をR5/3月発売。ワンコインパスポートの発売
		5.モードを跨いだ運賃設定	○	市自主運行バスと東濃鉄道営業路線の運賃の統一をR5/3月に開始
		6.移動データの取得	○	AI画像認識技術で映像を数値に変換した移動データの可視化を導入
	2.バリアフリー化を通じたサービスアップ(現状維持から発展へ)	1.駅舎などのバリアフリー化	✕	未検討
		2.ボランティア車掌の創設	✕	未検討
		3.外国語案内・バス系統番号の表示	○	バス系統番号をR5/3月にバス車両に設置
	3.観光列車の推進	1.観光列車と広報・周知の充実	✕	公共交通の手引書(公共交通機関、時刻、路線、運賃、乗り方等)をR5作成予定
		2.観光列車やイベントでの市民による活動(再掲)	○	鉄道の乗客を園児や地元団体がお出迎え

◆ 具体的な取組内容 1 ◆

目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

■6/1 「まちなか巡回バス」出発式に合わせて法定協議会の開催（明知鉄道車内）

法定計画事業である「まちなか巡回バス」の出発式に法定協議会委員に参加してもらい、その後、明知鉄道の車内で令和4年第1回目の協議会を実施。基幹路線である明知鉄道、幹線のバス、沿線の状況を再認識してもらい、今後のさらなる利用しやすい明知鉄道沿線地域交通ネットワークを目指すための意識の醸成ができた。



■9/17 公共交通シンポジウム&交通フェスタの開催■

地域公共交通の最大の危機を乗り越えるため、あらゆる施策を総動員し、加えて自分たちのまちが住みやすくなるよう考えてもらえるための情報を様々な手法で提供した。多くの方にご参加いただき公共交通の現状を知ってもらい、関心を持ってもらえるシンポジウムの開催ができた。参加人員1,000人。



◆ 具体的な取組内容 2 ◆

目標2：沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成

■6月～まちなか巡回バスの新設■

誰もが利用しやすい新たな移動サービスを提供するため、タクシーを利用した乗降可視化データを基に、恵那駅周辺の病院や商業施設を小型車両で、分かりやすい料金及び運行時間で1日10便ぐるっと巡回する新規路線の運行を6月から開始した。商店街のご協力により、商店街で利用できる「お買物券」を利用者にプレゼントし、商店街活性化にも寄与している。また、障がい者団体等へ乗り方教室を行い、安心してご利用いただいている。

・11月利用実績・・・885名、1便3.7人（6月881名、7月683名、8月728名、9月648名、10月793名）



■8月～シェアサイクル事業開始■

地域住民の利便性向上や観光客の回遊性の向上、また、まちなか巡回バスを補完する目的で、どこでも借りられて好きな場所で返すことができる電動アシスト自転車のシェアサイクル事業を開始した。同等規模の自治体のスタート時と比較すると、単価が他地域に比べて低く、これはシェアサイクルの本来の使い方であり日常のちょっとした移動や駅からの二次交通としての使用である。このまま市民の移動手段として根付いていくことが期待される。

・11月利用回数・・・100回、利用者数55名（8月129回、9月121回、10月104回）



◆ 具体的な取組内容 3 ◆

目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

■人とアプリによる「交通コンシェルジュ」の設置■

公共交通の利用促進・利便性向上のため、10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシェルジュ」を開設。ポータルサイトでは、バスの予約、位置情報、経路検索、観光案内、お得情報を掲載し、また年度内に1日乗車券等のオンライン決済やAI画像認識技術を駆使して映像を数値に変換した移動データの可視化を導入している。来年度以降は取得困難であった、バス・鉄道の乗降データとシェアサイクルの利用データも含めて分析し、路線再編等に活用していく。



2022.10.1.スタート

恵那市交通 コンシェルジュ

恵那のお出掛けが便利になる

オペレーターやWEBで最適な移動手段をご提案

ご案内します！

専用ダイヤル
0573-54-2010
(受付時間 9:00-17:00)

専用サイト
https://ena-transportal.net

電話までどうやって行こうかな
電話で聞いてみよう

バスで移動したいな
バス時刻を聞いてみよう

経路を聞いてほしいな
スマホで調べてみよう



交通コンシェルジュのできること

- 経路検索
- 観光情報
- バス時刻情報
- バス予約 (RS.4月~予定)
- バス位置情報
- お得なクーポン情報 (RS.1月~予定)

恵那市内の移動について
調べてくださいな

電話の場合はオペレーターが
代わりに予約・検索します

■デジタルサイネージの設置■

利便性向上を目的に、昨年度の明知鉄道恵那駅に続き、岩村駅と明智駅に設置した。



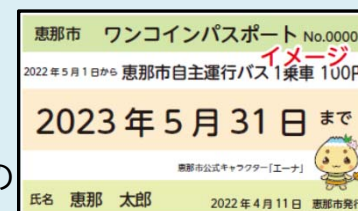
明智駅

岩村駅



■ワンコインパスポート・バス無料DAY■

高齢者、及び免許返納者が年間を通じて低額料金でバスを利用することができる運賃の割引等を設定した「ワンコインパスポート」の発売（免許返納者には交付）と、新規路線の運行、バス路線再編の周知を目的として、バス無料DAYを設定し利用促進を行った。ワンコインパスポートはまちなか巡回バスと同時期にスタートし、新たな利用者数の掘り起こしとなっている。



3. 【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

地域公共交通計画における目標

・明知鉄道沿線地域公共交通計画に定めてある評価指標により確認を行う。

アウトプット指標		H29実績		R4実績	R8目標値		達成度
目標1 公共交通を「支える」「活用する」 地域住民の活動促進	公共交通を「活用」する団体数	6団体	→	7団体 (R3実績)	11団体	→	63%
	ボランティア運転手養成講座の参加者数	0人/年	→	16人/年 (R3実績)	30人/年	→	53%
目標2 沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成	公共交通などで、沿線4高校に通える中学校数	7校	→	7校	9校	→	78%
	自主運行バス利用者 満足度	94.6%	→	95.1%	96.0%	→	99%
目標3 域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	観光による公共交通利用者数 <small>(観光列車、日帰り旅コース)(4月～翌年3月締)</small>	16,222人	→	3,999人 (R3実績)	16,000人	→	25%
	グリーン会員証の発売枚数 <small>(4月～翌年3月締)</small>	963枚	→	676枚 (R3実績)	900枚	→	75%
	うち 上矢作地区(フィーダー)	24枚		13枚	30枚		43%

アウトカム指標		H29実績		R4実績	R8目標値		達成度
1. 基幹路線（明知鉄道）の年間利用者数 <small>(4月～翌年3月締)</small>	380,889人/年 <small>うち定期外162,489人/年 通勤定期14,040人/年 通学定期204,360人/年</small>	→	253,354人/年 <small>うち定期外96,366人/年 通勤定期11,628人/年 通学定期145,360人/年 (R3実績)</small>	384,000人/年	→	66%	
2. 広域幹線・幹線の年間利用者数	220,117人/年	→	119,561人/年	204,000人/年	→	59%	
3. 地域路線の年間利用者数	117,732人/年 <small>(達成度97%)</small>	→	94,037人/年	101,000人/年	→	93%	

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

		利用者数(単位:人)					収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)				自己評価	
		R2年度	R3年度	R4年度	R8目標値	達成率	R2年度	R3年度	R4年度	H30年度	R2年度	R3年度	R4年度		
全体(広域幹線を除く)		166,008	143,111	137,641	182,000	76%	20.4%	19.1%	15.3%	88.9%	91.0%	83.1%	95.1%	B ₂	
自主 運行 バス	旧 恵 那 地 区	大井長島地域(市街地地区)	21,154	19,366	19,154	21,217	90%	25.3%	19.8%	27.0%	86.0% ※1	100%	79.5%	95.5%	B ₂
		東野地域	649	297	732	752	97%	6.1%	5.9%	6.9%		100%	100%※2	100%	B ₁
		三郷地域	21,833	14,662	15,224	23,925	64%	37.6%	37.1%	19.1%		83.3%	100%	100%	B ₁
		武並地域	17,244	15,436	14,022	17,772	79%	33.5%	33.0%	28.0%		83.3%※2	100%	100%	B ₂
		笠置地域	17,321	15,651	14,658	17,808	82%	31.6%	30.0%	20.7%		100%※2	100%※2	100%	B ₂
		中野方地域	29,206	20,911	22,564	31,626	71%	32.2%	31.7%	35.8%		76.9%	100%	100%	A
		飯地地域	5,676	5,306	5,271	6,100	86%	20.4%	23.4%	22.6%		83.3%※2	83.3%※2	90.5%	B ₂
	岩村地域 H30年度はデマンド	226	224	132	311	42%	17.4%	13.0%	11.1%	100%	83.3%	100%	100%	B ₂	
	山岡地域 H30年度はデマンド 内数	3,900 (638)	4,254 (705)	4,271 (629)	4,236	101%	5.2% (21.4%)	5.7% (22.1%)	5.8% (22.4%)	75%	75.0%	75.0%※2	75.0%	B ₁	
	明智地域	26,768	24,010	20,328	29,512	69%	23.2%	23.0%	21.5%	100%	100%	85.7%	100%	B ₂	
	串原地域	6,895	9,287	8,398	9,630	87%	6.9%	6.0%	6.0%	100%	100%	100%	100%	B ₁	
上矢作地域 (フィーダー)	11,283	9,892	8,448	15,232	55%	7.0%	5.4%	5.4%	93.4%	100%	66.6%	80.0%	B ₂		

※1 旧恵那地域のH30年度満足度は主要路線の抽出調査による。 ※2 回答が無かったため追加調査による。

評価基準 A : 利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合 B₁ : 利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
 B₂ : 利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合 C : 利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

		利用者数(単位:人)					収支率(目標値20%)			満足度(目標値96%)				自己評価
		R2年度	R3年度	R4年度	R8目標値	達成率	R2年度	R3年度	R4年度	H30年度	R2年度	R3年度	R4年度	
有償運送	阿木地域	1,587	1,717	2,606	1,754	149%	5.5%	5.8%	7.1%	-	100%	100%	100%	B ₁
	いいじ里山バス	1,281	1,403	1,211	1,244	97%	10.5%	7.7%	7.4%	100%	100%	100%	100%	B ₂
	くしばす	985	695	622	881	71%	9.3%	4.3%	4.8%	-	100%	83.3%	100%	B ₂

評価基準 A : 利用者が前年の1.01倍以上、収支率、満足度が目標値以上の場合 B₁ : 利用者が前年の1.01倍以上、又は収支率が前年を越えた場合
 B₂ : 利用者及び収支率が前年を下回るが、満足度が80%以上の場合 C : 利用者及び収支率が前年を下回り、満足度も80%以下の場合

目標達成状況についての考察

- ・ R4年度においても、コロナ禍の社会情勢の変化を受け、公共交通機関の利用者減に歯止めがかからず利用者は減少している。フィーダー系統路線である上矢作線については利用者数、収支率・満足度が他路線より減少した。
- ・ 明知鉄道の利用者数は、料理列車等の人数制限をしながらの実施であったため定期外利用者はR3年度より1%の減少したが、通勤定期利用者10%、通学定期利用者が2%の増となった。高齢者公共交通利用券の申請時に、グリーン会員証の周知も同時に行ったが増加しなかった。有償運送については、前年度に小学生の帰宅支援及び施設のオープンに合わせて時刻と路線の見直しを行った阿木地区以外は利用者数、収支率は鉄道、バスと同じく減少した。

今後の方針

- ・ 社会情勢の変化は予測できないが、コロナ禍において状況を見据えながら、鉄道、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指す。また、モードにとらわれない一体的な運賃制度などのMaaSプラットフォームを整備し、円滑な市内移動を実現する。
- ・ フィーダー系統路線の上矢作線については、昨年度より地域住民と路線再編についてアンケート調査等を行い地域と一緒に見直しを行い、4月から新たにより自宅付近から乗車できるように一部デマンド運行取り入れた路線へ再編を行う。
- ・ 満足度についても、全体の満足度ではなく、不満、やや不満との意見に注目し、各地域と協議を行い改善策を実施する。

課題

・社会情勢の変化は予測できないが、コロナ禍において、状況を見据えながら、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指す。
 また、モードにとらわれない一体的な運賃制度などのMaaSプラットフォームを整備し、円滑な市内移動を実現する。

今後の取組方針



目標1：公共交通を「支える」「活用する」地域住民の活動促進

- ・公共交通シンポジウムの開催 9月
- ・公共交通の手引書（公共交通機関、時刻、路線、運賃、乗り方等）を全戸配布 8月
- ・公共交通乗り方教室（通年）

目標2：沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成

- ・路線再編 旧恵那地区・上矢作地区・明智地区 3月下旬、4月
- ・シェアサイクル ステーションの増設
- ・運賃の統合（市自主運行バスと東濃鉄道営業路線）及び統一（1乗車200円）
- ・高校生の通学支援 路線再編・定期券の発行 3月下旬
- ・市内バス1日フリー乗車券（500円）の発行 3月下旬
- ・バス・鉄道共通フリー乗車券の発売及び共通定期券の検討 3月下旬発売



目標3：域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備

- ・公共交通コンシェルジュでは、バスの予約、位置情報、経路検索、観光案内、お得情報を掲載。3月末までに1日乗車券等のオンライン決済、バス遅延情報の表示やAI画像認識技術を駆使して映像を数値に変換した移動データの可視化を導入する。来年度以降は取得困難であった、バス・鉄道の乗降データとシェアサイクルの利用データも含めて分析し、路線再編等に活用。
- ・バス路線番号揭示 3月下旬

【 バス位置情報 】



バス停をクリック！
R4年度 直近発車時刻と行先を表示



バスをクリック！
R5年度 路線名・行先・遅延情報を表示

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	次年度以降に予定しているわかりやすい運賃の仕組みや交通コンシェルジュの導入に向けて、地域の関係者との協議を踏まえ、利便性が高く、持続可能な交通体系が実現することを期待します。	令和4年10月より、公共交通の利用促進・利便性向上のため、10月から「電話相談窓口」と「公共交通ポータルサイト」の2本立てで移動に対するお困りごとを解決する「交通コンシェルジュ」を開業。ポータルサイトでは、バスの予約、位置情報、経路検索、観光案内、お得情報を掲載して運用を開始した。	1日乗車券等のオンライン決済やAI画像認識技術を駆使して映像を数値に変換した移動データの可視化を導入している。来年度以降は取得困難であった、バス・鉄道の乗降データとシェアサイクルの利用データも含めて分析し、路線再編等に活用していく。
	新設を予定している「まちなか循環線」については運行開始後に、利用状況を確認し、継続的に見直しを行うことをご検討下さい。	令和4年6月よりまちなか巡回バスの運行を開始した。また、まちなか巡回バスを補完する目的でシェアサイクルを8月より導入した。利用データを基に鉄道との接続や時刻再編を行った。	まちなか巡回バス及びシェアサイクルの利用データを基に路線再編を行う。
	明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画に基づき、明知鉄道の利便性向上を着実に実施し、JR中央本線との接続改善や支線交通手段との連携強化を進めることを期待します。	計画に基づき、鉄道、バス、タクシーなど複数の交通モードによって公共交通網を一体的に再構築して、実情に合った持続可能な公共交通ネットワークを目指すために、路線及び運賃の再編の検討を行った。	令和5年3月のJR中央線時刻改正に合わせて、大きく時刻再編と運賃の改正を行い利便増進を図る。

※前回：令和4年3月10日

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<p>恵那市地域公共交通計画（任意計画）に掲げる事業を改正地域公共交通活性化再生法に基づく地域公共交通計画に反映し、具体化された各事業の検討に継続、実施されることを期待します。その際、実施される取り組みが鉄道・バス等の利用者の利便性向上につながるものとなることが重要と考えます。</p>	<p>令和3年度、明知鉄道沿線地域公共交通計画の改訂、下位計画として恵那市地域公共交通計画を策定した。計画に基づき令和4年度は地域公共交通ネットワークの形成に取り組んだ。新規路線のまちなか巡回バスの運行開始、それを補完するシェアサイクルについては事前にニーズを把握し取り組んだため、地域の足として定着しつつある。</p>	<p>今後も乗降データや利用者の声などを聞きながら、利用者ニーズ、地域ニーズ及び社会情勢に適した柔軟な交通体系を構築するためにICT等を活用した持続可能なまちづくりを目指す。</p>
	<p>コロナ収束後、鉄道を活用した観光の魅力発信をすることにより、来訪者、利用者が増加することに期待します。</p>	<p>観光列車の乗客の「おもてなし」について、明知鉄道だけが行うのではなく、地域ぐるみで行うことで観光列車の付加価値を高めた。また、観光庁の既存観光拠点の再生・高付加価値化事業の交通連携型事業を活用して、列車やSLと触れ合うことのできる企画や明知鉄道沿線の魅力を発信するモニターツアー等を実施し、明知鉄道及び沿線の新たな魅力発信を行う。</p>	<p>地域と事業者が連携し、住民の「やる気・生きがい」につなげると共に、明知鉄道の新Hpでも明知鉄道及び沿線の魅力を発信し、地域の観光資源として活用される仕組みを作る。 また沿線で行うイベントについては鉄道利用を促していく。</p>
	<p>岩村地域については、デマンド化からまだ日が短いことから引き続きの周知、これまでの検証、住民との意見交換等により、更なる利便性向上に期待します。</p>	<p>市及び法定協議会による周知に加えて、地域の広報誌を活用した住民周知を図った。 また、昨年度に引き続き、岩村地区の利用促進協議会において状況把握を行い、要望のあったバス停の新規設置及び移設を行った。 令和4年10月よりデマンドの受付を市交通コンシェルジュへ移行し、デマンド予約だけでなくお困りごと等に対応できる仕組みとした。</p>	<p>今後も地域の実情に合わせて、地域、事業者、行政が一体となり、柔軟な取り組みができるように引き続き周知を行いながら検討を行う。</p>

※前々回：令和3年3月1日

計画の評価と検証 計画の評価・検証、改善策の検討は、毎年年度末・年度はじめに開催される明知鉄道沿線 地域公共交通活性化協議会の場で実施。具体的には、計画の目標で定めた成果指標だけでなく、それを実現するための「路線単位での評価」についても確認を行う。目標値が達成できていない場合は、その要因を分析し、改善策を検討するPDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)により実施する。

